

シンクローは銀



デュエット・フリールーティン決勝で演技する立花(右)、武田組=水泳センターシンクロープール(共同)

ロシアに二歩及ばず

【アテネ二十五日共同】

アテネ五輪第十三日の二十五日、シンクロナイズドスイミングのデュエットで立花美哉、武田美保組(井村シンクロク)が銀メダルを獲得した。今大会の日本の総メダル数は金15、銀9、銅10の計34個となり、一九八四年ロサンゼルス大会の32個を上回って史上最多となった。

シンクローの立花、武田組は決勝のフリールーティンで、優勝したロシアには及ばなかったが2位。同じペアで出場した前回シドニー大会に次いで2大会連続の銀メダルとなった。

シンクロナイズドスイミングのデュエットで、立花美哉選手(29)、武田美保選手(27)のペアの華麗な演技に場内からは拍手が沸き起こった。

十二組のうち十一番目に登場した日本人ペア。歌舞伎の要素も取り入れた音楽に乗せ、軽快に舞った。水上をめぐるしく動く手足は、高さも角度もぴったりに決まる。最後のポーズが決まると甲高い歓声が響いた。

スタンドは各国のファンが色とりどりの国旗を振り、華やかな雰囲気。浴衣を着た日本人女性もいた。立花選手らの関係者は背中「JAPAN」と入ったTシャツ姿で応援。日本選手団主将を務める柔道の井上康生選手も駆け付けた。

バルセロナ五輪銅メダリストの奥野史子さんは「演技内容は日本が(ロシアに)勝っていると思う。世界中の人の心に残る演技をしてほしい」と期待を込めた。